

Speaker: ポール・スポング博士

オルカラボ創設者

ポール・スポング博士はブリティッシュ・コロンビア州のハンソン島にある陸上のオルカ（シャチ）研究施設「オルカラボ」（www.orcalab.org）の創設者であり、非営利団体「パシフィック・オルカ・ソサエティ」の代表でもある。カリフォルニア大学院にて生理学的心理学を専攻し1966年に博士課程を終えた。

オルカの脳を初めて目にしたポール博士は、好奇心を刺激された。1967年からイルカとオルカの研究に入り、最初は飼育下で、次に野生下で研究を始めた。彼は最初のアプローチで、鯨類の視覚的知覚を明らかにするための古典的な行動実験を行った。しかし、やがて彼は、実験の中でオルカの「スカナー」に手玉にとられるようになり、立場が逆転してしまう。

そこでポール博士は、オルカはあまりにも複雑で知的であるため、家族や自然の環境音から遮断されたコンクリートの水槽に閉じ込められているべきではないと考えた。これらの懸念を表明することで、彼は水族館の雇い主と対立し、野生のオルカを使った調査や、グリーンピースが1970年代に行った「鯨を守ろう」という運動に参加することになり、1982年に国際捕鯨委員会（IWC）で合意された商業捕鯨のモラトリアム（一時停止）に至った。

1980年代に入ると、ポール博士はオルカラボでの研究に戻る。以来、ポール博士は妻のヘレナ・サイモンズ氏と共同で、ブリティッシュ・コロンビア州のオルカのコミュニティである「ノーザン・レジデント・コミュニティ」の長期的な生態研究、オルカの生息地の保護、商業捕鯨や飼育下などの鯨類福祉の問題などを中心に研究を続けている。

1990年、ポール博士とヘレナ氏は「フリー・コーキー」キャンペーンを開始した。これは、生き残った最後のノーザン・レジデントの飼育下のオルカを、家族やコミュニティに返すための試みである。それ以来、多くの個人やグループがこの活動に参加している。1997年、ポール博士はモラトリアムでは商業捕鯨の問題が解決しないことを認識し、IWCに戻り、それ以来ほとんどの年次会議に出席している。

現在まで、ポール博士はこの壊れやすい地球で生き延びる可能性を高めることを目指して、インターネットを介して人々と自然界をつなぐ技術の開発に携わっている。(www.orca-live.net; explore.org) また、ポール博士とヘレナ氏は気候変動がもたらす悲惨な脅威を認識し、化石燃料を使わずにこれらの複雑なプロジェクトを実行できることを証明しようとしている。現在、オルカラボが必要とする電力のほとんどは、太陽光と風力発電で賄われている。

自然を愛し、
自然に任せる。

神奈川大学 栗田谷アカデメイア

2021年度 前学期

SDGs PBLプログラム 特別講演

2021年6月12日(土) | 10:30 - 12:00(オンライン開催)

同時通訳あり

Interpreter



Tomoko Mitsuya

オルカラボ・ジャパン代表。
1999年より毎年夏、カナダBC州ハンソン島のオルカラボにて野生のオルカ（シャチ）の調査ボランティアとして働く。オルカの群れの方言を聞き分け行動を追うことを得意とし、鳴き声の録音においては新人の指導にも力を入れている。

Chief Facilitator



Masaki Sugimoto

経営コンサルタント
/ MAP U株式会社 CEO

Q&A Facilitator



Yasuko Jody Toda

理化電子株式会社
代表取締役 / CEO



Zoomによる
オンライン開催！
お申込は
QRコードから
お願いします

定員：80名 ※6/3(木)締切の事前登録制です

対象者：栗田谷アカデメイア寮生、本学学生、交換留学生、本学教職員、地域の方々

主催：神奈川大学 国際センター

共催：株式会社 学生情報センター / MAP U 株式会社

お問合せ：株式会社 学生情報センター TEL03-5466-1208 kanagawakokusai@gmail.com

※今回取得するメールアドレスは、6月12日(土)開催ポール・スポング博士特別講演のzoomID送信にのみ使用することとし、それ以外には使用いたしません